

猷 辞

廣田司朗先生は、1995年11月20日に古稀の寿をむかえられ、1996年3月末日をもって関西大学を定年退職されます。

大阪府下の茨木の地にお生まれになった先生は、旧制第六高等学校をへて京都大学にすすまれ、ご卒業後は山口大学に赴任されました。そして、1956年4月に本学に助教授として着任され、1963年4月には教授になられ、今日にいたっています。

その間、先生は学部では財政学をご担当になり、大変に味わい深い講義をされたのみならず、ゼミナールでもていねいな指導をなされました。大学院では、税制論をおもちになり、数多くの大学院生の面倒をみてこられました。しかも、時折テレビなどにも出演され、経済学の啓蒙にも尽力されました。

研究面では、先生はドイツ財政思想史の研究に重点をおかれ、名著『ドイツ社会民主党と財政政策』（有斐閣、1962年）、『現代財政学』（ミネルヴァ書房、1972年）および『財政学』（同文館、1977年）など多くの著書や論稿を世に問われました。なお、『ドイツ社会民主党と財政政策』により、1966年に京都大学経済学博士の学位を取得されました。

これと関連して、先生は日本財政学会の理事・常任理事を長くつとめられ、現在顧問をなされています。

それだけではありません。先生は商学部長（1967年10月16日～1969年7月10日）、教学部長（1973年10月1日～1975年3月31日）、大学院部長（1978年11月1日～1979年10月31日、1989年10月1日～1990年9月30日）などの要職を歴任され、大学行政の中枢でもご活躍されました。

私的な領域でも、先生はきわめて多彩な才能を発揮され、なかでも釣りは趣味の範囲をこえ、玄人はだしの域に達していることはまちがいありません。また、先生は懇親会の場などで、時として声楽家なみの声量でカンツォーネやドイツリートなども歌われ、聴衆を魅了される様を忘れることができません。

このように、先生は研究・教育面や学内行政面のみならず、趣味の面でも多彩な才能をいかんなく発揮されました。先生のご退職は、まことにさびしいかぎりです。われわれは、先生が本学に残された大きな足跡をふまえて前進する所存です。

先生が、今後ともますますご健勝にすごされ、斯学の発展と後進の育成などにご活躍されますよう、お祈り申し上げます。われわれは、先生のご足跡を回顧し、感謝の意をこめ、ここに『商学論集』の古稀記念の特集号をささげます。

1995年12月1日

商学部長 加藤 義 忠